



今回は、美術館と一画家の住居とアトリエを見学します。
世田谷美術館は日本の実力派の建築家内井昭蔵の名作です。
もう一つの美術館、向井潤吉アトリエ館もと佐藤秀工務店の創始者佐藤秀三の名作です。
それぞれの建築の足跡を辿ります。

設備改修、耐震改修工事、あるいは美術館として必要な改修工事が行われています。

それぞれの工事内容とその後の美術館としての活動を深堀りしていきたいと思います。

今回の企画は世田谷美術館の館長橋本善八氏と学芸員の皆様のご尽力で実現した取組です。橋本氏の自宅は丸谷博男の設計でOMソーラーから始まり、昨年そらどま換気に改修されている築25年ほどの住宅です。

以下、今回の予定です。

- 集合場所：11:00世田谷区立向井潤吉アトリエ館玄関前（入場券は丸谷からお渡しします）、12:00まで見学
- 移動：田園都市線駒澤大学駅から用賀駅下車徒歩20分、お昼はコンビニで買い世田谷美術館のある砧公園で食事します。
- 13:00~14:45世田谷区立世田谷美術館で、橋本館長から説明を聞き、見学します。（入場券は丸谷からお渡しします）
- 移動：田園都市線用賀駅から二子玉川駅で乗り換え、東急東横線の自由が丘駅下車
- 「コーポラティブハウス自由が丘」を見学します。現地案内は、NPO都市住宅とまちづくり研究会の杉山昇氏です。NPO都市とまちづくり研究会は、現在丸谷博男が取り組んでいる熊本市水前寺五丁目プロジェクトの共同コーディネーターです。
- 参加費3000円、交通費は各自負担してください。終了後の懇親会は実費でお願い致します。

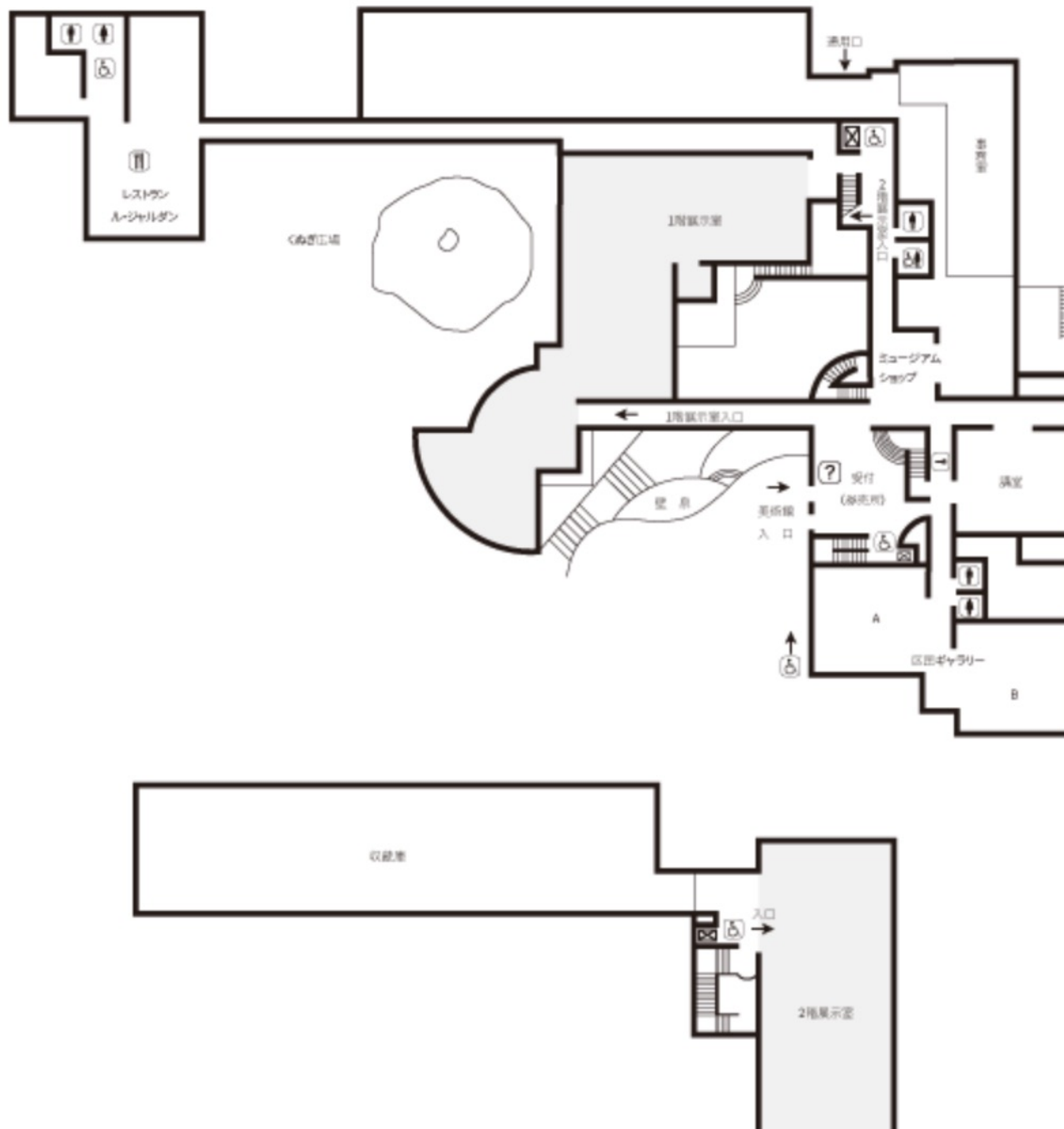
📧お申し込みは、h.maruya@me.comにお願い致します。

🏠浮輪寮に宿泊する方は、夜酒の肴・朝食付6000円です。6名まで宿泊可能です。

12月11日木曜日 エ
コハウス研究会全
国大会記念

世田谷区の美術館
としての歴史的建
造物、その維持管
理と活用から学ぶ





- ・世田谷美術館
東京都世田谷区砧公園1-2
- ・向井潤吉アトリエ館
東京都世田谷区弦巻2-5-1
- ・自由が丘コーポラティブハウス
東京都世田谷区奥沢6-1



12月11日木曜日 全国大会記念 世田谷区の歴史的建造物を訪ねる

今回は、美術館と一画家の住居とアトリエを見学します。日本の実力派の建築家内井昭蔵と佐藤秀三の足跡を辿ります。世田谷美術館の学芸員の皆様のご尽力で実現した取組です。

12月12日全国大会会場
「うめトピア」



12月11日木曜日 全国大会記念 世田谷区の歴史的建造物を訪ねる

今回は、美術館と一画家の住居とアトリエを見学します。日本の実力派の建築家内井昭蔵と佐藤秀三の足跡を辿ります。世田谷美術館の学芸員の皆様のご尽力で実現した取組です。

また、最後の見学先に、コーポラティブハウスを自由が丘に訪ねます。

向井潤吉アトリエ館 佐藤秀三設計施工。
1962年竣工、1993年改修開館

11~12:00

13:00~14:45

世田谷美術館

内井昭蔵設計1986年竣工、2006~2008改修工事

15:30~17:00

自由が丘コーポラティブハウス

ルール

成城学園前

スキップ
白江店

上作延

制作基礎知識シリーズVol.35 美術館の改修① 世田谷美術館の事例 [1]

講師 橋本善八

（世田谷美術館 美術課長、現在館長を務める）

日本各地で美術館の大規模改修が相次いでいる。1970年代末から80年代にかけて、日本では数多くの地方美術館が建設されたが、これらの施設の設備が一斉に20年～25年の耐用年数を迎えているためだ。

例えば、2年間の改修工事を経て2008年にリニューアルオープンした群馬県立近代美術館（1974年開館・磯崎新設計）、今年7月から改修工事に入った米子市立美術館（83年開館）、2年の大規模改修を終えて今年4月にリニューアルオープンした東京都美術館（75年開館・前川國男設計）、現在、改修計画を策定中の福岡市美術館（79年開館）などが挙げられる。

86年に建設された世田谷美術館も同様に設備の更新時期を迎え、2011年7月から改修に着手し、12年3月にリオープンした。建物自体の耐震性や老朽化の度合い、展示室の状況、バリアフリーに対応しているかといった施設の状況や事業内容、設置主体の財政、直営施設か指定管理者施設かなど、前提が異なるため、改修計画の策定方法や改修内容は、それぞれの施設で全く異なる。今回は、その一例として設備の更新を中心に行った世田谷美術館の取り組みについて紹介する。

●世田谷美術館改修のポイント

世田谷美術館の改修におけるポイントを挙げると、次の5つになるだろう。

- ①指定管理施設における改修計画づくり
- ②1万6,000点に及ぶコレクションの扱い
- ③改修環境づくりと安全な職場環境の確保
- ④空調関係の設備更新のあり方
- ⑤休館中の事業展開（継続事業の存続と広報）

今回は①②について説明する。

①指定管理施設における改修計画づくりとスケジュール

美術館の改修の主体はあくまで設置主体である世田谷区であり、すべての決定権は区にある。世田谷美術館の改修計画においては、美術館（財団）を所管する生活文化部文化・国際課と建物修繕を所管する施設営繕課が区側の担当となり、美術館運営に携わっている指定管理者である公益財団法人せたがや文化財団（世田谷美術館以外に世田谷文化生活情報センター、世田谷文学館を運営）の事務局と美術館メンバー、設計事務所・協力会社により計画づくりが行われた。

改修計画づくりの大きな流れは下図のとおりだ。美術館では、25年を目途に空調設備の耐用年数が来ることから、09年頃から改修についての議論が行われていた。しかし、小中学校（約100校）の耐震化工事など区が有している施設のメンテナンスを順次行う必要もあり、営繕のために必要な予算全体でタイミングが検討されるため、美術館の状況だけでスケジュールを決めることはできず、結局、当初予定より2年ほど遅れての改修となった。

当初、設置者と美術館が改修により「世田谷美術館の魅力アップ」という観点で1年ぐらい議論を行った。美術館内にプロジェクトチームを立ち上げてアイデアを出しあったりもしたが、予算が無ければ何も実現しない。収蔵庫の増築や緑青が剥がれてしまった屋根の修復等も必要とされたが、結局、躯体の老朽化も含めて次で大規模改修をせざるを得なくなる十数年後まで美術館として存続できるために必要な空調設備や水回り、電気系統の改修が今回の主たる目的となった。

①改修工程

【設置者：世田谷区の視点】

3年前

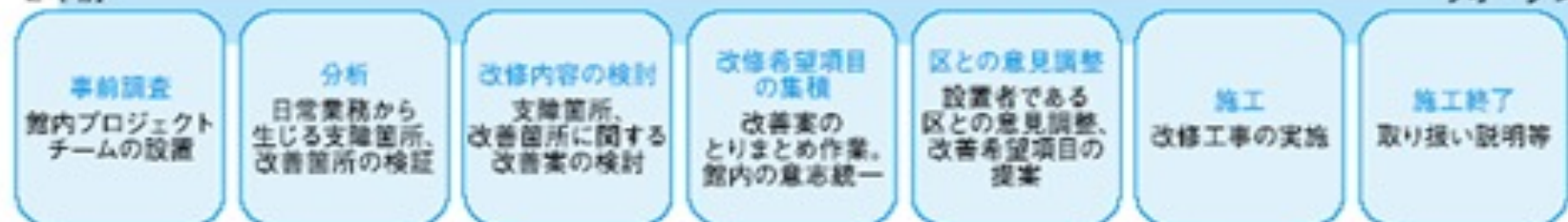
リオープン



【運営主体：美術館の視点】

2年前

リオープン



【改修工事期間中の情報共有、工程調整、意見調整など】

会議体	内容	備考
全体会	原則：毎週火曜 14:00～ 設計・監理者、建築、設備、電気の各業者、世田谷区施設管理課、世田谷区生活文化部文化・国際課、美術館が出席し、工事全体の進捗状況の説明、課題の提案と解決、継続審議事項の確認、質疑応答などを行った。	この全体会後に、建築、設備、電気の各分科会を開催し、さらに詳細な検討、具体的な手法などについて討議。
3者調整会	原則：毎週金曜 14:00～ 設計・監理者、建築、設備、電気の各業者と美術館が出席し、全体会では調整課題とならない、さらに詳細な工程確認、具体的な意見交換と情報共有を行った。	詳細な工事内容、また職員の館内移動に関する情報共有、安全確認など現場レベルでの検討を実施し、各出席者の意思疎通、情報や認識齟齬の調整などに役立った。
館内調整会	原則：毎週火曜 17:00～ 副館長以下、課長級および担当職員が参集し、全体会、3者調整会での議案、結果、審議事項などについて共有し、美術館サイドとしての意思形成などを行った。	毎回、レジュメを作成し、既定事項の確認、検討事項の確認、情報共有などを行い、結果はすべて文書とし、全職員に配布し、共通認識、情報共有をはかった。

②1万6,000点に及ぶコレクションの扱い

収蔵庫に入れたままで工事は可能なのか、工事期間中は外部に美術品専用の倉庫を借りて全作品を移動させるのか、あるいは展示室など館内の別の場所に移して保管するか。1万6,000点に及ぶコレクションの扱いについては、改修計画が動き出した早い段階から多角的に検討がなされた。しかし、入札で施工業者が決定するまでは作業手順も確定せず、ぎりぎりまで具体的な対応策を決めることができなかったため、さまざまにシミュレーションを行った。

まず、倉庫を借りてコレクションを移すことを考えて保険会社の見積もりを取った。環境の整った倉庫に移すことが作品管理の上で最も安全だというのが通常の考え方だが、保険会社の評価は全く異なる。高価なものを美術館の外に移動し、1カ所に集めて保管することはリスクが高いと判断され、保険料が跳ね上がってしまう。世田谷美術館の場合、輸送・保険料だけで億単位となることが判明し、倉庫に移すことは諦めざるを得なかった。

また、休館中のコレクションの有効活用を区から求められたこともあり、多くの美術館に声を掛け、まとまって作品を貸し出せるところを探して交渉。企画が終了した後も、改修工事が終わるまで作品を預かってもらうようにし、有効活用とリスク軽減の両立を図った。

群馬県立近代美術館の改修では、展示室にコレクションを移して管理を行ったが、世田谷ではメイン空調とサブ空調を切り替えながら行えば、大半の作品を収蔵庫に入れたまま改修できることが判った。空調機を取り替える際、1週間だけはどうしても空調を止めなくてはならない状態になるが、空調機的设计者、施工業者および施設の維持管理を委託している委託会社との話し合いで、気候の安定する11月上旬であれば収蔵庫の構造上問題はないという判断だった。ダクト交換に際して工事が出た微細なゴミが収蔵庫に入らないよう吹き出し口に何重もフィルターを設置し、データロガーを使って環境測定をしながら1週間を乗り切った。結果的にほとんど環境に変化はなかった。

ちなみに、作品の保管については改修に際して専門業者がいるわけではなく（また、専門業者に委託されているわけでもなく）、学芸部の担当領域となる。しかし、区から指定管理者に改修業務について改めて委託されるわけでもない。一方、施工業者は収蔵庫に何もない状態を前提に作業を行うことになっていたため、相応の協議を重ね、問題があった時には設置者である区が責任をもつという約束で作業が進められた。

②収蔵作品の保管に係る館内準備作業



●世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2

<http://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

[開館] 1986年3月

[敷地面積] 19,000㎡

[建築面積] 4,882㎡

[延床面積] 8,577㎡

[設置者] 世田谷区

[運営者] (公財) せたがや文化財団

[設計者] 内井昭蔵建築設計事務所

美術館の空調のなぞ

世田谷美術館は、2012年の3月30日までお休みをいただいて改修工事を行っています。

我々職員は、館内の工事をしないエリアに仮事務室を構え、館外で行うワークショップの準備や来年度の展覧会準備をしています。毎日、「ギー、ギー」「ガァー、ガァー」「ドタバタ」など不思議な音が鳴り響いています。

主な工事は、25年間休まず働いた空調機の交換と配管の整備です。老朽化した空調機は、温湿度を一定に保ちにくく、そのために作品はダメージを受け易くなってしまう。また、来館してくださるみなさまにも、快適に過ごしていただけなくなります。

特に作品を展示している展示室や作品を保管する収蔵庫は、作品保護のために24時間空調をかけ続けて温湿度を保っています。25年間休まず使用すると、216000時間も働いたことになります。時間で換算すると凄い桁です！

みなさんは、「空調機」というとエアコンを連想されるかもしれませんが、美術館のような大型の建物の空調機はちょっと違います。加熱・冷却のできる熱交換器という大きな機械を使っています。機械が大きければ、電気もたくさん消費すると思いますが、世田谷美術館は、「空に雲が浮かんだ模様の煙突」のある世田谷清掃工場がお隣にあるので、大丈夫です。ゴミが焼却される際に出される蒸気をいただいて動力としています。

実は、美術館と清掃工場は、蒸気を通す管で繋がれています。美術館の地下にある機械室へ160度の蒸気が供給され、それを熱交換器という機械で温水と冷水に分けています。温水で空気を温め、冷水で空気を冷やして室温を調節します。暑い夏は、冷水を多く生産して、寒い冬は、温水を多く生産しています。気温だけでなく、湿度管理も美術品にとって重要。程よい湿度（55～60パーセント）を維持するために日々微妙な調節が必要です。

25年間同じ機械を使っていたり、蒸気を清掃工場からいただいたりと、意外と世田谷美術館がエコであるとお分かりになっていただけたでしょうか。また、空調が、美術館の根幹部であることもご理解いただけたでしょうか。

サン・テグジュペリの『星の王子さま』で「大切なものは、目には見えない」と王子さまが言いますが、目に見えない不調が美術館にもあり、それが一番危険なものだったりするのです。だからこそ、目に見えないところの工事は怠りなく、じっくりさせていただいております。

2012年3月31日からは、よりキレイな空気の中でみなさんをお迎えいたします。作品にも人にも環境にもやさしい美術館であるためにもうしばらくお待ちください。

投稿者: s.s 日時: 09:54 AM

世田谷美術館展覧会より 2009.12.12 - 02.28開催

内井昭蔵の思想と建築

自然の秩序を建築に

世田谷美術館を設計した建築家の足跡をたどる

「健康とは〈生きているもの〉の価値基準である。人は病んだとき初めて健康の喜びや健康の価値を知るのであるが、このごろの建築をみていると、つくづく健康な建築の必要性を感じる。最近の建築はどこか病んでいるようだ。人間と建築とを同一に考えることはできないが、健康という価値基準を建築にあてはめることはできると思う」。これは、内井昭蔵が著した「健康な建築」の冒頭です。彼の建築家としての思想を端的に示し、その造形が生成されていく根源にふれる言葉です。

明治時代に正教会の建築を手がけた祖父・河村伊蔵、そして建築家・内井進を父にもつ内井昭蔵は、建築家として1967年に独立し、2002年に急逝するまでの35年間、多くの作品を手がけつつ、京都大学などで後進の指導にもあたり、日本の建築界に多大な貢献を果たしました。初期の代表作<<桜台コートビレジ>>（1970）をはじめ、<<身延山久遠寺宝蔵>>（1976）、<<世田谷美術館>>（1985）、<<国際日本文化センター>>（1991）、<<御所>>（1993）、<<大分市美術館>>（1998）などの優れた設計は国内外から高い評価を得ました。

内井昭蔵は建築に合理性を求めるだけでなく、自然の秩序を意識し、そこから生じてくる装飾を丹念に建築にとりこみました。建築が人間にとって親しみやすい存在であることを思い、人間と建築が馴染みあう空間を築くことを、心から大切にした建築家であったといえましょう。本展では「内井昭蔵の思想と建築」をキーワードとし、その歩みを設計図面、写真、模型、映像などを通じて回顧します。

<https://www.satohide.co.jp/works/11/11-05.html>

佐藤秀の創業者である建築家 佐藤秀三の設計作品で、秀三と親交のあった、茅葺き屋根の民家のある風景を多く描かれた向井潤吉画伯の住居兼アトリエとして、**1962年（昭和37年）**に建築されました。

その後、区民の憩いの場にしたいとの向井画伯のご意向で、世田谷区への寄贈されました。**1993年**に「世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館」として改修され、一般公開されています。

2009年には、竣工より半世紀近くが経過したため、耐震補強工事が行われました。向井画伯の作品鑑賞やその生活実感が感じとれる美術館としての魅力はもとより、建築家佐藤秀三の建築作品に触れられる貴重な建物といえます。



向井潤吉アトリエ館は、世田谷区弦巻の閑静な住宅街の一角に所在します。
今は住宅が立ち並ぶこのあたり一帯は以前タンチ山と呼ばれた雑木の林だったところ。しかし、今ではその面影もこのアトリエ館と隣接する学校の一部にしか残されておらず、この残り少ない自然の保護と文化新興に役立ちたい、という向井画伯の希望を受けて平成5年に世田谷美術館の分館として開館しました。
平成4年まで自宅兼アトリエであった建物と作品が保管されていた古い土蔵も含めて、その空間がそのまま展示室として使用されています。
展示作品の中心になる全国各地の民家と風景は、戦後間もない頃より描き続けられたもの。今はほとんど見る事のことのなくなった光景が深い郷愁を誘います。
アトリエ館は、東急玉川線・駒沢大学駅、東急世田谷線・松蔭神社前、共に歩いて10分から15分位の距離、指標が要所に立ててあるので安心です。

向井潤吉アトリエ館

所在地

東京都世田谷区弦巻 2-5-1

tel 03-5450-9581

会館時間

10時-18時（入館は17時30分まで）

月曜休館（祝日の場合は翌日）

年末年始

自由が丘・九品仏・奥沢・田園調布が徒歩圏！ 自由が丘コーポラティブハウス

【計画地概要】◇所在地/ 東京都世田谷区奥沢六丁目5番1他（地番）◇交通/ 東急大井町線「九品仏」駅徒歩7分、東急東横線・大井町線「自由が丘」駅徒歩12分、東急東横線・目黒線「田園調布」駅徒歩10分、東急目黒線「奥沢」駅徒歩11分◇用途地域/ 第1種低層住居専用地域◇地目/ 宅地◇建ぺい率/ 50%◇容積率/ 100%◇敷地面積/ 923.90㎡◇形態/ 専有面積割合による所有権の共有◇構造・規模/ 鉄筋コンクリート造地上3階、地下1階予定◇総戸数/ 18戸予定、募集住戸11戸◇広告有効期限/ 2021年11月末日◇紙面に掲載の価格は取得目安価格です。取得目安価格はあくまでコーディネイター提案例で建設した場合の目安価格であり、建物の設計費・建築工事費・価格は最終的に組合員の総意で決定します。

コーポラティブ方式とは・・・自ら居住するための住宅を建設しようとする者が、共同して事業計画を定め、土地の取得、建物の設計、工事発注その他業務を行い、住宅を取得し、管理していく方式のことをいいます（昭和53年3月建設省（現国土交通省）住宅局コーポラティブ方式研究委員会より）。コーディネイターは、具体的な計画の説明から、土地の購入手続き、建設会社の選択、登記、ローンなど融資手続き、組合運営、入居後の管理まで幅広く組合をサポートします。

■企画・コーディネイト

特定非営利活動法人東京都知事認証（12生コ文振特第739号）

NPO 都市住宅とまちづくり研究会

千代田区神田東松下町33番地2F 電話03-5207-6277

（社）首都圏不動産公正取引協議会加盟（社）全日本不動産協会会員

株式会社すばる建設企画

宅地建物取引業／東京都知事（6）73343号

千代田区神田東松下町33番地2F

株式会社コンサルティングハウス

宅地建物取引業／東京都知事（1）第103979号

千代田区平河町1-9-1 2F

沼野井論建築設計事務所

一級建築士事務所東京都知事登録第59039号

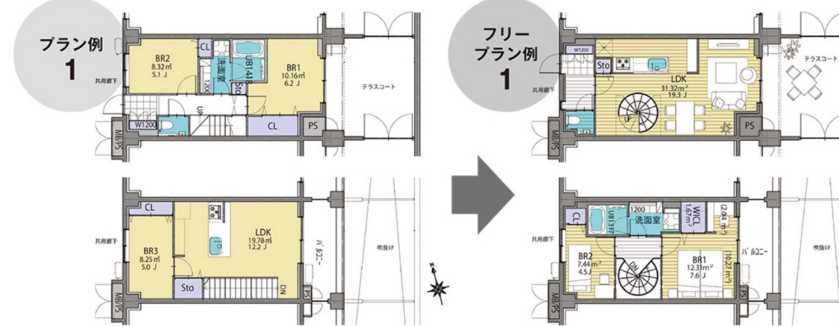
文京区本駒込5-57-6 201号

■設計・監理

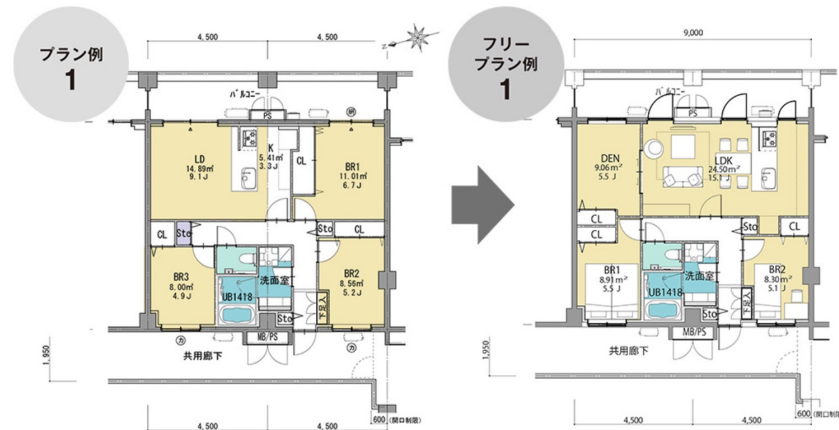
株式会社ケイ・吉嶋プロジェクト・パーティー

一級建築士事務所東京都知事登録台33554号

世田谷区深沢8-10-14 5D



お庭感覚の3.9mの奥行きテラスコート、一戸建て感覚の住戸です。



※取得目安価格には、土地代金・建物代金（システムキッチン・ユニットバス等住宅設備機器・内装仕上げ材含む）の他、設計料、コーディネイト料が含まれます。

Cタイプ
73㎡台
6,900万円台

奥行約3.9m、約18㎡の広いテラスコートがついた住戸です。上下階で構成されるため戸建てのような住戸です。柱梁を外壁の外側に出すアウトフレーム構造の採用により主開口部のサッシ面に梁が出ないすっきりとした設計としています。※掲載のプランはCタイプです。

Hタイプ
70㎡台
8,600万円台

主開口部9mのワイドスパン。リビングと居室ともに主開口面にレイアウトすることが可能な自由設計がしやすい住戸です。アウトフレーム逆張り構造により、ワイドな主開口面をさらに生かすことができます。



計画建物イメージパース

東京都世田谷区にある計18世帯からなるコーポラティブハウス。

分譲マンションのようにできたものを「買う」のではなく、計画段階から住まい手を募集し住まい手が能動的に「作る」住まい方となります。

各住戸内の計画は、住まい手の趣向・ライフスタイルに合わせ自由な設計が可能となり、弊社ではインフィル設計者として参画し、3住戸担当。

白を基調としたミニマルな住まい、和の要素を表現した住まい。木目を活かしたシンプルな住まいなど、それぞれの家族構成・プランニングが異なるデザインとなっています。

■ 竣工	2024年
■ 建設地	東京都
■ 構造	RC造
■ 階数	地下1階地上3階
■ 用途	共同住宅
■ 建築面積	448㎡
■ 延床面積	1435㎡
■ コーディネーター	NPO都市住宅とまちづくり研究会
■ 統括設計	ケイ・吉嶋プロジェクト・パーティ
■ インフィル設計担当	3住戸

